

## 環境破壊図鑑

名古屋大学中央図書館 2 階の「新刊コーナー」によく立ち寄る。現役の頃に比べて、なかなか本が買えないので（「蔵書の苦しみ」からも、できるだけ買わないことにしている）、ここの新刊を借りて読むことが多い。

写真の『環境破壊図鑑—ぼくたちがつくる地球の未来』もその一つだ。生物ジャーナリストの藤原幸一氏が 5 大陸 120 カ所の環境破壊の生々しい実態について動物に焦点をあて、とりまとめた図鑑。数多くの動物の厳しい現実、地球の未来をビジュアルに示している。

紹介したいことは多いが、なにかと関心のある「オランウータンの森がなくなる」だけにとどめておきたい。



およそ 100 万年前、南はジャワ島から、北はマレー半島、ラオス、ベトナム、中国南部、西はインド国境地域まで、オランウータンは広く生息していた。全て同じ種というわけではなく、いくつかの種が存在した。現在の種よりももっと大きな体格のオランウータンが高地に分布し、小さな種は低地でくらしていた。

しかし今、オランウータンが生き残っているのは、ボルネオ島とスマトラ島だけだ。それぞれ別の種がみられ、スマトラオランウータンは体長 90~140cm で体重 45~90kg。ボルネオオランウータンは体長 120~140cm で体重 30~100kg だ。

どちらの島も、生息地の森の破壊が急速に進み、アブラヤシのプランテーションにかえられている。

ボルネオではすでに、原生林の 65%以上が破壊されたとみられ、スマトラに至っては、1935~1980 年の間に生息地の森の 70~80%が失われたという。

現在、スマトラ北部に残された国立公園だけが最後の砦となっており、オランウータンは絶滅の瀬戸際に立たされている。このままだと、早ければ 20 年以内に野生種は絶滅するだろうという試算もある。



(2017 年 11 月 26 日)